

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890700036
法人名	特定非営利活動法人アクティブボランティアセンター 阿蔵の森
事業所名	グループホーム阿蔵の森
所在地	大洲市阿蔵甲1961番地4
自己評価作成日	平成26年7月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・自然環境に恵まれており、季節感を感じながら日々の生活を送ることができ、個性豊かなスタッフとともに、穏やかに、かつ楽しくその方らしい生活が送れるよう努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>「にぎやかな環境は苦手」という利用者は、ご家族からも「一人の時間を大切にしてほしい」と希望があり、食後は、居室で一人の時間を持てるよう支援されている。ご家族からの意見もあり、職員は、利用者への言葉遣いや声の大きさについて話し合い、それぞれが意識して取り組むことを申し合わされた。利用者がごぼう削ぎや栗の皮むき等して、食事作りにかかわれるよう支援されている。調査訪問時、職員が利用者に、台拭きや下膳、食器洗い等をお願いすると、利用者はすぐ取りかかっておられた。一人ひとりの状態に合わせた食材や形態、用具や食器に配慮し、できるだけご自分で食事できるように支援されている。姿勢が崩れる方には、椅子に滑り止めマットを敷いておられた。利用者から即席ラーメンやお寿司等のリクエストがあれば、随時に対応されている。誕生会には、ケーキか饅頭、赤飯でお祝いされている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム阿蔵の森

(ユニット名) B

記入者(管理者)

氏名 岡西 一徳

評価完了日 26年 7月 18日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の行事に参加し、季節ごとの近郊への外出を楽しみながら、どんな時でも理念に基づいたケアができるよう心掛けている。	
			(外部評価) 「あたたかい手 明るい笑顔 やすらぎの空間」という開設時からの理念を玄関と各ユニットに掲示されている。勉強会時、管理者は職員と「理念の意味するところ」について意見交換して、管理者からは、「利用者側に立つ」という、基本的な意味を伝えられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 小学校行事に招待を頂き参加したり、近隣のグループホームと定期的に交流を図ったりしながら地域に溶け込むよう努力している。	
			(外部評価) 小学校の運動会や学芸会時には、利用者の席を確保して待ってけている。又、地域の盆踊りや納涼祭にも出かけて楽しまれている。小学生や保育園児の訪問があり、歌や踊りを見せてくれたり、一緒に遊んだりして利用者の輝いた表情が見られるようだ。「開設記念日」には、恒例の餅搗きを行い、毎年、もち米を届けてくれる小学校や、近所の方にも配っておられる。近くの畑で作業をしている方が、野菜をくれたり、「花が咲いたから見においで」と誘ってくれたり、花の球根を分けてもらうこともある。事業所のそうめん流し等のイベントには、近所にも声をかけお誘いするが、まだ参加にはつながっていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を活用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	2カ月に一度実施している。	
			(外部評価)	会議では、ヒヤリハットや事故報告を行っており、出席者から、「なんでそんな事が起こるのか」と質問があった際には、管理者が認知症について説明をされた。又、「行事計画書はあるが、行事の報告がない」という意見には、様式も含めて検討し、実施報告が行えるよう取り組まれている。利用者・小学校校長・他グループホーム管理者と、現在、1名のご家族が出席されている。	さらに、ヒヤリハットや事故報告と併せて、改善への取り組みやケアの工夫点についても報告されてはどうだろうか。会議を通じて認知症や事業所への理解が深まるように、工夫を重ねていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	定期的に連絡会、勉強会の案内を頂き参加することで、市町村との連携を取りながら質の向上を目指す。	
			(外部評価)	市の担当者から勉強会の情報提供があり、参加されている。又、利用者の外出先が同じ所になってしまいがちになることから、運営推進会議時には、身障者用トイレと車いすを備えている場所の情報提供をお願いされた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	職員の理解は徹底している。取り組めている。	
			(外部評価)	玄関にセンサーを設置しており、利用者がひとりで出かける際に、職員が気が付けば付いて行き、時々声を掛けながら支援されている。気が付かなかった場合は、事業所から3方向の道筋を探すことになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングでの勉強会等で防止に努める。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度に関する勉強会は未実施である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は十分時間を取り、説明、質疑応答に誠意を持って対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や日々の面会時にコミュニケーションをとり、意見を伺っている。 (外部評価) ご家族への定期的な報告の仕組みは作っていないが、来訪時には職員が利用者の暮らしぶり等を口頭で伝えておられる。行事等の写真は廊下に掲示しており、ご家族来訪時に見てもらっている。又、利用者と一緒に写真を撮って、帰るまでにお渡ししている。毎年、事業所で敬老会を催し、その後、家族会を行っており、半数程度のご家族が出席されている。その際には、ご家族と職員で話す時間を設けており、「お任せします」と言われる方が多いようだ。	足遠いご家族もおられるが、利用者の日常の様子や事業所のことを伝える工夫に取り組み、一緒に利用者を支えていく関係を作っていかれてほしい。事業所では、家族会時にご家族だけで話し合う時間を設けたり、毎年の餅つきへの参加を呼びかけてみたいと話しておられた。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングや勉強会、また個別に機会を設ける。	
			(外部評価)	
			毎月の勉強会は、担当職員が準備から進行まで行い、「不眠」をテーマに勉強した際には、夜間、トイレに行く回数との関係について話し合われた。日常的に確認できるよう、職員トイレには、認知症ケア会議の内容や、「いい言葉・悪い言葉」を貼っておられる。介護記録の様式を、研修で得た情報と職員のアイデアを採り入れて、使いやすいものに仕上げられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			今以上に取り組んでいく。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			評価できる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			施設見学会への参加を呼びかけ、参加してもらっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前にアセスメントをご本人や家族と十分に行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前にアセスメントをご本人や家族と十分に行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前にアセスメントをご本人や家族と十分に行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家族的な雰囲気の中でその方らしい生活ができるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には近況を報告し、常にコミュニケーションを取っていくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親族以外の面会は殆ど無いので、今後の課題である。 (外部評価) 「忘れられない味の饅頭がある」という利用者の声から、一緒に饅頭を買いに行かれたことがある。利用者同士の関係性を踏まえて座席の位置に配慮したり、視界に入らないように向き等も工夫されている。今後さらに、一人ひとりがこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を探ることに努め、支援につなげていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 施設内でのコミュニティ作りを支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族との連携にて実施している。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思表示できる方には可能なことは実施し、できない方には家族からの情報や、仕草等の観察で、なるべく意思に沿うよう心掛けている。 (外部評価) 入居間もない時期には、以前利用していた介護事業所や病院からの情報提供書をもとに支援し、その後、センター方式の一部を用いてアセスメントされている。話しかけた際の反応や表情から利用者の気持ちを汲み取ったり、様子がいつもと違う時は、1対1になれる入浴介助時等にじっくりお話を聞くようにして、思いや意向の把握に努めておられる。	日々の生活の中で知り得た利用者一人ひとりの情報を蓄積できるよう、アセスメントを工夫されて、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしが続けられるよう、支援に活かしてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前にアセスメントをご本人や家族、居宅等のケアマネと十分に行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録を付け、見直したり、チームでケアカンファレンスすることで把握できている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアカンファレンスを開き、スタッフは意見を出し合い、ご本人や家族の意見を重視し、なおかつ現状に即したプランになるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時、介護計画を立てる際にはご家族と話し合い、その後は電話で意見をうかがっているが、「お任せします」と言われることが多いようだ。毎日の介護記録にプランに沿ったケアのチェック欄を設けて3ヶ月毎に集計して、モニタリングに活かしておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>実施できている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>その方らしさを大切に、ニーズに合わせて対応したいが、あまり要望が出ないのが現状。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>併設のデイサービスにおいて慰問等があれば参加させて頂いたり、小学校行事や地区の行事への希望者参加などで支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 実施できている。	
			(外部評価) 協力医の往診を受けている利用者が、半数程度おられる。利用者個々のかかりつけ医に受診の際は、ご家族が通院介助されており、事業所からご家族に利用者の状態を伝え、受診後にはご家族から報告を受けるようになっている。ご家族の都合によっては、職員が通院介助されている。又、かかりつけ医に状態を報告し、薬だけ職員が取りに行くようなケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 准看護師の資格を持つ職員に相談しながら、かかりつけ医に報告している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は可能な限り付き添い、情報提供を行い、退院時には入院中の様子を良く聞き、こちらでの生活がスムーズに送れるよう連携を取っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 急変時には家族、主治医と相談し、今後の方針を決定する。	
			(外部評価) 市からは、「看取りを支援するためには、正看護師が24時間対応できることが必要」と言われており、事業所では体制を整えることが難しい現状のようだ。入居時には、その旨ご家族に説明し、了解を得ている。急変した場合は、ご家族とかかりつけ医に連絡して救急車を呼び、管理者が同行されている。救急搬送後は、病状が落ち着いて戻って来られる場合や、長引いて退居となる場合もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急救命法を消防署の講義にてレクチャーして頂き、またAEDも昨年度設置した。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、定期的に避難訓練を行っている。	
			(外部評価) 年2回、消防署指導のもと、夜間想定等で避難訓練を実施されている。消防署からは、「最悪の場合は、命を優先するように」と、指導があり、布団を使って利用者を2階から降ろす訓練にも取り組まれた。災害時の連絡網には、事業所の前のお宅の方にも加わってもらっている。職員は、救急救命法の講習を受けており、又、事業所にAED(自動体外式除細動器)を設置していることを近所にも周知されている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 実施できている。	
			(外部評価) 「にぎやかな環境は苦手」という利用者は、ご家族からも「一人の時間を大切にしてほしい」と希望があり、食後は、居室で一人の時間を持てるよう支援されている。ご家族からの意見もあり、職員は、利用者への言葉遣いや声の大きさについて話し合い、それぞれが意識して取り組むことを申し合わされた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) なるべく実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理強い無くご本人の気持ちを大切にしよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髪のカットや季節感のある衣服を声掛けしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえやお茶くみ、配膳、下膳、お膳拭きをお願いしている。また、可能な限り一緒に食卓を囲めるよう工夫している。	
			(外部評価) 利用者がごぼう削ぎや栗の皮むき等して、食事作りにかかわれるよう支援されている。調査訪問時、職員が利用者へ、台拭きや下膳、食器洗い等をお願いすると、利用者はすぐ取りかかっておられた。一人ひとりの状態に合わせた食材や形態、用具や食器に配慮し、できるだけご自分で食事できるように支援されている。姿勢が崩れる方には、椅子に滑り止めマットを敷いておられた。利用者から即席ラーメンやお寿司等のリクエストがあれば、随時に対応されている。誕生会には、ケーキか饅頭、赤飯でお祝いされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その方に合わせた摂取量になるよう気をつけている。また、水分量は状況に応じて記録を残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 夕食後は一部介助にて必ず実施。その他はセルフケアが現状である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>個別の排泄パターンを把握し、トイレ誘導に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前は、排泄チェック表に記録していたが、現在は介護記録にチェック欄を設けて記入し、その日の様子と照らし合わせながら支援されている。昼間は、できるだけトイレで排泄できるよう支援し、訴えのない方には、職員が傾向を考慮して声をかけて支援されている。男性職員の介助に抵抗がある女性利用者には、同性職員が対応されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>食事メニューやおやつにヨーグルトを頻回に使用。また、散歩を楽しむことで予防している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴剤や、たっぷりのお湯など、「気持ちいい」と感じて頂けるよう努めている。時間帯は午前か午後、日によって変更することで工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の希望に沿って、午前でも午後でも入浴できるよう支援されている。入浴中は、利用者と職員がゆっくり話ができる時間となっている。抱えると痛みがある方は、浴槽に入ることが困難なため、足浴とシャワーのかけ流しで対応されている。脱衣所には、個々の名前を書いたシャンプーが置いてあり、入浴剤は2種類用意されていた。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>マイペースにベッドタイムをとられ、夜間不眠の方には日勤帯の見直しを図っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋がすぐ確認できるようにし、変化があれば申し送りで何度も確認し合う。誤薬のないようチェックしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望に合わせたレクから、他者を巻き込んでの集団レクに発展させた時の笑顔等、日々観察しながら役割を担って頂くよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日光浴や散歩ができるだけ楽しめるよう努めている。また、外出行事も希望を聞き参加して頂いている。	
			(外部評価) 日中、希望をお聞きして、2~3人で散歩されている。事業所周辺の砂利道が舗装されたため、車いすでの外出もしやすくなったようだ。日頃の買い物は車で出かけており、又、季節に応じて桜や菖蒲を見に行ったり、内子の笹祭り、フラワーパーク等にも出かけている。外食後にショッピングも楽しんで帰ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の要望も無く、なかなか難しい現状がある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 今後の課題である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			実施できている。	
			(外部評価)	
			事業所は、前方に肱川、後方に山、周囲に畑が広がり、自然に囲まれた環境にある。玄関前には、テーブルといすが置いてあり、ひなたぼっこしたり、芋煮会等の折に使用されている。ユニット中央に、居間と調理場、畳のコーナーがあり、廊下には、折り紙や塗り絵、利用者と一緒に作った花火の貼り絵、行事の写真等が掲示されていた。先日のそうめん流し時の写真は、竹が繋がるように貼って、写真を見る人に当日の雰囲気が伝わるよう工夫されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			施設内でのコミュニティを大切にしている。	
			(外部評価)	
			使い慣れた衣類や、家族の写真、家族からの届け物、ご自身の塗り絵等により居室が明るくなっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			(外部評価)	
			各居室に洗面台とベッド、ダンスが備え付けられている。塗り絵の好きな方から、少女の浴衣姿の塗り絵のリクエストがあり、仕上がった作品を「ここに貼ってほしい」と貼る位置の指定もあるようだ。花の好きな方は、鴨居に造花を並べており、カレンダーに丸印を付けている方もおられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			日中の過ごし方は自由に、マイペースに。どうしてよいかわかりにくい方には声掛けにて提案しながら過ごして頂いている。	